

令和 7（2025）年度 学校評価報告書

令和 8（2026）年 7 月

成城学園学校評価委員会

目 次

<序文>

令和 7（2025）年度学校評価報告について 学園長 戸部順一	・ ・ ・ ・ ・ 1
---------------------------------	-------------

<中学校高等学校>

自己評価実施委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 4
--------------	-------------

令和 7（2025）年度 学校評価アンケート 中学校高等学校 自己評価について

学校関係者評価委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 18
---------------	--------------

<初等学校>

自己評価実施委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 22
--------------	--------------

令和 7（2025）年度 学校評価アンケート 初等学校 自己評価について

学校関係者評価委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 30
---------------	--------------

<幼稚園>

自己評価実施委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 33
--------------	--------------

令和 7（2025）年度 学校評価アンケート 幼稚園 自己評価について

学校関係者評価委員会 報告	・ ・ ・ ・ ・ 40
---------------	--------------

（2025 年度学校評価アンケート 幼稚園の自己評価説明を受けて）

令和 7（2025）年度学校評価報告について

学園長 戸部順一

平成 19（2007）年の学校教育法改正によって、高等学校以下の学校（幼稚園を含む）に対して学校評価の実施が義務付けられましたが、成城学園は国の方針に従い、幼稚園、初等学校、中学校高等学校の各校において、平成 20（2008）年度から当該活動に取り組んでまいりました。平成 20 年度から平成 26（2014）年度に至る 7 年間は、毎年、学校評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、発刊しておりました。その後、ある程度の期間をあけて評価を行った方が、各校の抱える問題をより正確に把握できるのではとの考えに基づき、毎年の実施は見送られることになりましたが、その方針転換にコロナ禍が重なり、学校評価の実施及び評価結果の公表は平成 29（2017）年度から 5 年間、中断を余儀なくされました。しかし、令和 4（2022）年度からは、各校は保護者アンケートの回答を参考にしながら、教育活動及びその他の学校運営に関する点検を行い、点検結果を一つにまとめた学校評価報告の作成を再開しております。また評価結果をより多くの方々にご覧いただくこと、公表はホームページ上で行うことになりました。

評価は毎年、同じ方法によって行われており、特に大きな変更はありません。そこで、評価報告の理解を深めるために、最初に学校評価の趣旨、評価を担う組織、評価の方法等について簡単に説明させていただきます。

1. 学校評価の趣旨：各学校は教育活動及びその他の学校運営について、目標を設定し、その達成状況や達成に係る取り組みについて自己評価¹をし、その結果を公表しながら、持続的な改善を図ること。

2. 学校評価を担う組織：学校評価を担う組織としては、学校評価のためのガイドラインの策定及び評価結果を取りまとめることを業務とする「学校評価委員会」²があり、その下に、学校評価委員会の定めたガイドラインに従って学校評価を実施する「自己評価実施委員会」³が各学校に設置されています。

3. 評価方法：評価は年に一度実施される保護者アンケート⁴のアンケート結果を分析し、現状の問題点を明確にしながら（＝自己評価）、その改善策を模索します。

4. 学校関係者評価委員会：自己評価実施委員会による自己評価の結果と改善策への取り組み状況をチェックする組織として「学校関係者評価委員会」⁵が各学校に置かれています。学校関係者評価委員会の特徴は、教員と保護者から選出された委員の皆さんから構成されていることです。この構成は自己評価実施委員会による自己評価に対し、保護者の視点からの検証を可能にしており、教員側の評価と保護者側の再評価がいわば併記された形で、チェック結果を公表されることになっています。

以上が学校評価の組織、評価方法についての説明ということになります。

さて、成城学園は平成 29 年に創立 100 周年を迎えることを契機に、平成 26 年度に第 1 次中期計画である「成城学園第 2 世紀プラン」を策定いたしました。中期計画とは、一定の期間を設け、その期間の年度ごとの事業計画の達成を積み上げながら、計画の中に掲げたビジョンの実現を目指す活動のことを言い、令和 6 年度からは第 3 次中期計画、すなわち成城学園第 2 世紀プラン 2030 が開始したところですので一期間は令和 6 年度から令和 11（2029）年度の 6 年間—としております。第 3 次中期計画のビジョンとして掲げたのは「しなやかな知性」「挑戦する意欲」「共感する心」を有した若者の育成であり、これは成城学園の創立者である澤柳政太郎博士が唱えた「個性尊重の教育」の進化・深化版であり、それを現代的に表現したものです。「個性尊重の教育」の深化とは、園児・児童・生徒・学生諸君の持つ資質を十分に開花させることに加えて、他者の個性を尊重する姿勢を学ぶことへと「個性尊重」の意味を拡張することであり、また進化とは、100 年前にはなかった授業（例えば、中学校高等学校で行われている課題解決型授業や、幼稚園、初等学校でも展開されている国際教育—他者理解のための教育です—などが挙げられます）による教育を意味します。深化の中核に置かれている他者との協働を大切にする心の育成は、いつの時代でも、社会の健全性を保つためには必須であり、学園はそういう心を持つ若者を育て上げることを第 3 次中期計画の達成目標といたしました。

学園が掲げる中期計画のビジョンを達成するために、各校はそれぞれの中期計画を策定しますが、そこには各校の「中期計画の目標」⇒目標に至るための「取り組み」⇒取り組みの具体策と言うべき年度ごとの「事業計画」が記載されています（中期計画、事業計画はホームページ上で公開されておりますから、是非ともお目通しを願います）。単年度の事業計画がどの程度達成されたかを評価し、その評価結果を報告するのが事業報告です。そのため、学校評価報告と事業報告には重なる部分も多く、学校評価報告と合わせて事業報告をお読みいただければ、各校の教育活動等をより深く理解できるかと思われますので、こちらにもお目通しいただければ幸いです（令和 7 年度事業報告もホームページ上で公開されております）。

学校評価報告の内訳は、保護者アンケートの結果、保護者アンケートに基づく自己評価、学校関係者評価委員会からの評価であり、それらを各校ごとにまとめた体裁になっております。評価の材料である保護者アンケートは、学園各校のいい点、改善してほしい点を浮き彫りにしてくれます。例えば、学校の施設、学校行事に関する項目では、各校とも高い評価をいただき、また人と人とのつながり、友人関係の構築—充実した学校生活を過ごす上で、きわめて重要な要素です—という点においても、高評価をいただいている一方で、上位学校に関する情報＝進級に関する情報が不十分であるとの指摘を受けました。情報量が実際に少ないのか、情報発信の仕方に問題があるのか、議論の必要性を感じました。良い点は伸ばし、問題点は、その解消に努める…。それを強く意識させることが学校評価報告の価値かと思われま

学校評価報告は教職員と保護者の協働によって作り上げられます。勿論、この活動の目的は評価報告の作成で終わるものではなく、私たち教職員がその評価を真摯に受け止め、よりよい学校作りに活かすことにあります。このことをお誓いし、令和7年度学校評価報告の序文とさせていただきます。

¹ 各学校長のリーダーシップのもと、当該学校の全教職員の参加のもとで、学校目標の達成状況や達成に係る取り組みの適正性について行う評価のこと。

² 学園長を委員長として、法人事務局長、中学校高等学校校長、初等学校校長、幼稚園園長及び各学校から選任された者1名を委員とする組織。

³ 各学校長（含む園長）を委員長とし、学校長が指名した者を委員とする組織。

⁴ 自己評価を行う上で、保護者を対象として行われる、学校目標に関するアンケート調査のこと。

⁵ 学校長、接続学校から選任された者、父母の会部会長、学校長が指名した保護者を委員とする組織。委員会の委員長は学校長を除いた委員たちの中から、互選によって選ばれることになっています。

令和 7（2025）年度 学校評価アンケート 中学校高等学校 自己評価について

●はじめに

第 3 次中期計画の 2 年目にあたり、2025 年度は、これまで深化させてきた様々な取組をさらに発展させることを軸として、多様な教育活動を展開してきた。とくに国際交流に関する企画については、マクダナ校からの短期留学をコロナ禍以降初めて実現できたことなど、充実したものとなった。さまざまな企画も、体験するといった枠を超えて、「探究する」という方向性が明確になり、その意義づけについては、来年度以降の新たな展開につながる状況ができたと感じられる。その一方で、生徒を取り巻く問題は、複雑化しており、たとえば、生徒間のトラブルにはスマホ、SNS が関係するケースが非常に多く、解決に時間を要する場面も見られた。「人とかかわりアンケート」の継続実施は一定の効果をもたらしていると考えられるが、生徒の安心を支えているのは学級担任をはじめとした教員の日々の努力であることを強く感じる 1 年でもあった。

また、「探究」への教員内の理解と実践は着実に深まりつつあると感じているが、あらためて「学び」そのものをどのように豊かにしていくかという点では、なお課題も残されている。こうした授業改善への取組や日々の工夫が十分に保護者に伝わっているとは言い難く、教育活動の意図やねらいを丁寧に共有していく必要性を強く感じている。同時に、生徒一人ひとりが「わかる」ことの歓びを実感できる授業づくりを、私たち自身がもっと追い求めていかなければならない。

●学校目標（第 3 次中期計画の 2 年目）

（Ⅰ）教育活動

A. 国際教育

《中期計画の目標》

「異なる文化や価値観」を理解しそれに共感すると同時に、「自国の文化や価値観」を伝えていくこともできる知識・教養を身につけさせる教育プログラムを、様々な教科の横断的な学びから発展させていく。その際、生徒が視野を広げられるような体験を有機的に繋ぎながら積み重ね、それらの中で、国際的なコミュニケーションを可能にするための言語運用能力の向上をはかる。特に英語については、英語検定試験等を活用し各学年で設定した到達目標に向けた学習活動を展開する。

《中期計画の取組》

- ①短期留学、長期留学、留学生との交流などの国際交流プログラムの充実
- ②歴史（日本史、世界史）、経済、地理、環境教育、人権教育の視点を通じて他者理解を学ぶ
- ③種々の検定試験等の有効活用、e-learning 教材の活用など、語学教育の深化
- ④国際教育（海外の大学進学）を意識した進路指導の充実

B. 理数系教育

《中期計画の目標》

生徒が課題を発見・分析・解決できる、高い問題解決能力を育成するために、これまでの授業・学校行事を、「探究」の視点から再構築していく。特に、自然観察や科学実験、データ分析、モデル化等、より適切なアセスメントを行う体制をつくり、生徒の理解力に応じた学習支援体制を構築していく。

《中期計画の取組》

- ①各学年の学校行事を展開する中での、新たな視点を取り入れた課題解決型の教育活動（PBL）
- ②「サイエンス教室」の継続的な実施など、理数系への興味関心を深めるためのプログラムの開発
- ③理科実験室の活用、基礎教育（定着）の充実、ICT 機器を活用した発問や対話を重視した学習活動、デジタル・シティズンシップ教育の展開など、日常的な学習活動において、論理的な思考力を高める施策

C. 情操・教養教育

《中期計画の目標》

学校行事や部活動等を中心とした、様々な表現活動の場を、従来の枠にとらわれずに広げ充実させていく。

《中期計画の取組》

- ①国際教育の枠組みの中で多様性理解に繋がる情操・教養活動の展開
- ②日本語表現力を磨く活動の充実
- ③芸術系科目を基礎とした、共感を大切にした活動の充実
- ④学校行事を通じた、異学年の交流とリーダーシップ、フォロアーシップを高める活動の深化
- ⑤保護者と共に考えるデジタル・シティズンシップ教育の拡充

D. その他の重点分野

《中期計画の目標》

本学園独自の「SAIL (SEIJO Academic Interactive Learning)」プログラムを 2024 年度より本格的に起動させ、異年齢により構成されたコミュニティの中で様々な思考法を学び、協働しながら課題解決する経験を重ねていく。さらに、経験による硬直化を防ぎつつ「未知」に挑むスキル（アンラーニング）を持ち成長しつづける生徒が増え、2030 年には自主的な活動として多くの「探究するコミュニティ」が学園内に創られるようにする。

《中期計画の取組》

①大学との連携

ロジカルシンキングやデザイン思考など、課題解決の方法としての思考法について学ぶ。この学習体験により、体系だった学びで得た知識や思考力が成城大学または他大学での研究活動、さらにその後の人生におけるアンラーニングにつながることを強く意識させ、中高大の学びのロードマップを描けるようにする。この学習経験によって得たことをアウトプットし、次なる課題を創出する。

②社会に目を向けた活動

様々な企業、団体での取り組みにふれる機会を持つ。その経験により社会に出てからの課題解決のイメージをつかみ、必要なスキルは何かを考える。また、多様な文化や背景を持つ人たちも含め、他者の視点を理解し、共感する力を育む。この学習経験によって得たことをアウトプットし、個人と社会との関係について次なる課題を創出する。

③学びの原点の探究

「①②によって得た力を成城学園という学びの場にどう還元していくか」という問いのもと、協働しながら課題解決に向けたアイデア創発を行い、このプログラムを終了した後も自主的に探究するチームが創られるよう学習環境を調える。また、幼稚園や初等学校との交流を通して「学びの原点とは何か」を考える機会を持つ。

(II) 研究活動

《中期計画の目標》

日々の授業の中で、生徒の自主性や創造性を引き出すような授業運営・評価方法についての多様な情報を集め、それらについて研究・実践するための研修会・研究会を実施していく。とくに、教員同士が情報交換やアイデアの共有を行える場を設け、教育の質を向上させる取り組みを進めていく。さらに、社会との連携を強め、生徒の発想の柔軟性を高めるための支援体制を整えていく。さらに、教員の仕事について、効率化、環境整備等についても、リサーチを進めていく。

《中期計画の取組》

- ①教育効果をより高めるための ICT 機器利用に関する研究
- ②学び方、学ばせ方に関する教員間の学び合いの充実
- ③多様な観点からの評価方法を取り入れていくための継続的な研究
- ④多様な評価方法に対応できる、評価システム、教務処理システム（PC 環境）に関する研究
- ⑤課外教室等の学校行事について、「探究」的な活動を高めるための研究
- ⑥豊かな経験をもつ社会人との出会いを演出し、生徒との対話の機会を増やしていくための活動
- ⑦働き方改革を見据えた効率的で効果的な教材作成に関する研究
- ⑧将来的な部活動のあり方に関して考えていくための調査活動

（Ⅲ）社会連携活動

《中期計画の目標》

地域との連携を深めていくため、これまで続けてきた各種連携活動の内容を深めていく。さらに、東京都私立中学校高等学校協会第 8 支部、もしくは、五学園との交流を通して、多くの私立学校、さらに公立学校との交流を拡充していく。

《中期計画の取組》

- ①BLS・水辺の安全講習を通じた「いのちの教育」の普及活動など、学内スキルを活用した活動の充実
- ②学内施設を利用した地域・他校との交流
- ③学内自然環境（100 年の森、杉の森）の活用を通じた、地域との交流活動の展開
- ④ボランティア活動等の場を広げ、人とのふれ合いを大切にする活動の展開

（Ⅳ）教育環境整備

《中期計画の目標》

多様なバックグラウンドを持つ生徒が協力し円滑な協働作業ができるよう、グループ学習スペース、発表スペースの充実を図り、ICT 機器等のコラボレーションツールを活用できるようにしていく。また、災害時の備えを含め、生徒の安全や健康への配慮を広い視点で考え改善点を見出していく。

《中期計画の取組》

- ① コリドースペース、カフェテリア等の活用について、生徒の意見を取り入れつつ検討
- ②現「PC 教室」の新展開を考えていくための情報収集
- ③生徒のケガ、体調管理等に関連する学校環境・設備の影響についての調査と改善
- ④科学実験を中心とした、生徒の探究的な取り組みを発展させるための施設設備の拡充
- ⑤芸術系科目を通じた表現力を高めるための活動を支える施設・設備の在り方についての研究
- ⑥技術・家庭科を中心に「作る」ことを豊かにする施設の在り方についての研究

●学校評価アンケート

I 実施期間：2026 年 1 月 15 日～2月10日（1月30日までの一次締め切りについて延長した）

II 対象：中学校高等学校 全保護者 「ウェブでお知らせ」にて配信

III アンケート項目（中学校高等学校共通）

下の Q1～Q21 について、調査対象者が以下の 4 段階で回答する。

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない ⑤わからない
集計上、①を 4 点 ②を 3 点 ③を 2 点 ④を 1 点とし、⑤の数は除いて、平均値を求めた。

Q1 特色ある教育活動が行われている。

Q2 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。

Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。

Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

Q5 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。

Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。

Q7 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口（養護教諭、カウンセラー等）がある。

Q8 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

Q9 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。

Q10 上位学校（中学校→高等学校、高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。

Q11 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。

Q12 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。

Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。

Q14 学校は、日々の教育活動で I C T 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。

Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。

Q16 「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。

Q17 学校では、英語の外部検定に関して、中3までに英検準2級を取得すること、高2までに英検2級を取得すること(または CEFR レベル B1 に到達すること)に向けての学習活動が行われている。

Q18 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。

Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。

Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

Q21 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。

（参加されていない場合はわからないとしてください）

Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。

IV 集計結果について

1) 回答数（カッコ内は在籍者数）

高 1	204	(282)	高 2	208	(285)	高 3	182	(261)
中 1	160	(243)	中 2	151	(248)	中 3	137	(240)
所属学年不明※ 2								
高等学校	594	(828)	中学校	448	(731)	全体	1042	(1559)

昨年度の回答数（1075（1559））に比べると、回答数が若干減少した。

2) 集計結果

	質問項目	全体	高校	高1年	高2年	高3年	中学	中1年	中2年	中3年
1	特色ある教育活動が行われている。	3.29	3.23	3.20	3.18	3.33	3.37	3.47	3.34	3.28
2	学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。	3.28	3.27	3.21	3.30	3.29	3.30	3.39	3.24	3.28
3	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.53	3.54	3.52	3.52	3.57	3.53	3.62	3.48	3.47
4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.52	3.48	3.49	3.35	3.60	3.59	3.68	3.55	3.54
5	学校は、普通の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。	3.21	3.20	3.18	3.19	3.24	3.22	3.33	3.09	3.25
6	学校は、ホームページ、「ウエブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。	3.36	3.35	3.31	3.29	3.45	3.37	3.45	3.28	3.39
7	お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口(養護教諭、カウンセラー等)がある。	3.08	3.09	3.04	3.09	3.15	3.06	3.13	3.01	3.03
8	感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	3.10	3.10	3.00	3.08	3.23	3.09	3.18	3.02	3.09
9	お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。	3.65	3.62	3.65	3.56	3.66	3.68	3.77	3.65	3.59
10	上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。	3.08	3.24	3.18	3.22	3.34	2.86	2.99	2.65	2.94
11	学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。	2.99	3.02	2.87	3.04	3.18	2.95	3.20	2.80	2.81

	質問項目	全体	高校	高1年	高2年	高3年	中学	中1年	中2年	中3年
12	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。	3.05	3.07	2.88	3.11	3.22	3.03	3.25	2.95	2.88
13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	2.76	2.79	2.64	2.84	2.89	2.72	3.02	2.51	2.60
14	学校は、日々の教育活動でICT機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。	3.07	3.11	3.05	3.14	3.14	3.02	3.24	2.85	2.95
15	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。	2.74	2.79	2.59	2.86	2.93	2.68	2.89	2.50	2.64
16	「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.97	3.10	2.88	3.16	3.25	2.73	2.89	2.45	2.85
17	学校では、英語の外部検定に関して、中3までに英検準2級を取得すること、高2までに英検2級を取得すること(またはCEFRレベルB1に到達すること)に向けての学習活動が行われている。	2.87	2.93	2.85	2.91	3.04	2.79	2.81	2.66	2.92
18	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.85	2.86	2.78	2.82	2.98	2.85	2.99	2.68	2.87
19	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.71	2.71	2.64	2.68	2.83	2.71	2.88	2.53	2.71
20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.58	3.58	3.56	3.56	3.64	3.57	3.65	3.56	3.48
21	お子さんが部活動に参加している方へ:学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合はわからないとしてください。)	3.37	3.37	3.33	3.39	3.40	3.36	3.44	3.30	3.34
22	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.38	3.37	3.33	3.39	3.40	3.39	3.59	3.27	3.31

3) 集計結果の分析

3-1) 相対的に評価が高い設問について（上位5項目）

- Q9 お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。 3.65
Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。 3.58
Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 3.53
Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。 3.52
Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。 3.38

参考 2024 年度 上位5項目

- Q9 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。 3.60
Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 3.52
Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。 3.52
Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。 3.48
Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。 3.33

これら高い評価を得た設問上位5つのうち4つは、昨年とまったく同じものとなった。昨年度に引き続き、様々な機会に保護者の皆様に、生徒が活躍する姿を直接見ていただくことができおり、また、こうした場に積極的に保護者の方々が参加していただけていることがうかがえる結果となっている。同様のことは、部活動なども含めて、Q20（施設設備）について高い評価が得られたことと結びついていると考えられる。実際に学校に来ていただき、それぞれの場を見ていただけているからこそ、こうした評価が得られていると感謝している。また、Q22 は、昨年度は上位5つには含まれていなかったが、今年度は評価値が上がった。なお、昨年度は含まれていた項目（Q6「学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。」）については、昨年度よりも評価値は上がっているものの、他の項目が上がったために含まれなかった。

3-2) 相対的に評価が低い設問について（下位5項目）

- Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 2.71
Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 2.74
Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。 2.76
Q18 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。 2.85
Q17 学校では、英語の外部検定に関して、中3までに英検準2級を取得すること、高2までに英検2級を取得すること(またはCEFRレベルB1に到達すること)に向けての学習活動が行われている。 2.87

参考 2024 年度 下位 5 項目

- Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 2.67
- Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 2.71
- Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。 2.76
- Q18 学校は、英語 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。 2.88
- Q16 「進路学習」「道徳」「高 2・3 セミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 2.90

これら評価が低い設問下位 5 つについても、昨年度と同じ項目が 4 つ含まれる結果となった。すべての項目が、学習活動に関係するものなので、生徒を通してしか伝わらないこうしたものについて、保護者の皆様へ理解を深める活動を展開すること自体が引き続き難しいものとなっていることが浮かびあがる。ただし、理数系教育については、昨年度に引き続き行われたプログラミング教室では、ロボット作成を通じて技能を高める工夫や、サイエンス教室の実施も継続的に続けられているが、そこへの参加者が限定的となっている点など良い影響が広がりにくい傾向を改善できていない。

なお、英語学習については、今年度より高等学校で GTEC の導入など新たな取り組みを展開したが、こうした取り組みも評価値の上昇という形にはつながらなかった。

3-3) 中学校と高等学校で、評価に差がある設問について (中学で、相対的に評価値が低いもの)

- Q10 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。高校 3.24 中学 2.86
- Q16 「進路学習」「道徳」「高 2・3 セミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 高校 3.10 中学 2.73

参考 2024

- Q10 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。高校 3.57 中学 2.76
- Q16 「進路学習」「道徳」「高 2・3 セミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 高校 3.01 中学 2.73

今年度、全設問の中で 0.2 ポイント以上の差がついたのは、昨年度と同じ 2 項目だった。

やはり、Q10 (上位校に関する情報提供) で中高差が開くのは、その濃度が異なっていることに起因するものだが、高等学校での評価値が昨年度より、やや下がった形となっている。

例年、少しずつ企画内容などは精査し改善を図っているが、学年が進行して行く中では、こうした改善が評価されにくい状況(昨年と比較できない)がある。一方で、同窓会のご協力によるキャリアガイダンスでの生徒を対象としたアンケート結果では、生徒の問題意識が高まっているという効果もうかがえたので、こうした活動が保護者に伝わるような工夫が足りていないことを感じる。

3－4）各質問項目について

Q1 特色ある教育活動が行われている。全体 3.29 高校 3.23 中学 3.37

一昨年度、昨年度に引き続き高い評価を得ている項目である。行事も含めた本校の特色が理解され、その良さが伝わっていること、ならびにそれらに参加している生徒の様子に積極的に触れていただく機会を多く持てたことが評価に結びついたと考えられる。高校2年生でやや評価値が低く、中学1年生で高い結果となった。

Q2 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。全体 3.28 高校 3.27 中学 3.30

昨年度（全体 3.16 高校 3.2 中学 3.11）に比べると全体的に少し評価値が高くなっている。部会長をはじめ多くの父母の皆様のご尽力が反映されたものと考えられる。非常に熱心なご支援を支えとして、今後も、さらにご意見を反映できるような活動ができるようにしていきたいと考えている。

Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 全体 3.53 高校 3.54 中学 3.53

この設問も、昨年度、一昨年度と同様、高い評価が得られた設問の一つである。学年別で見ても高い評価が得られており、生徒が良い友人関係の中で生活していると言える。生徒を対象に行った「人とのかわりアンケート」などの状況を見ても、同様のことが言える結果となっていた。ただし、例年、教員の頭を悩ませる問題は起きており、その多くが SNS に関連したものとなっている。こうしたトラブルを解決し、すべての生徒が良い友達関係を築いていけるようにしていきたい。丁寧な対応と問題の未然防止に対して、引き続き見守りのための努力が必要となっている。

Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。 全体 3.52 高校 3.48 中学 3.59

この項目も、昨年度に引き続き、保護者の皆様に学校行事に参加していただく機会が多い状況を反映したよい結果となっている。保護者会などでの、飛翔祭に関する動画放映なども好評で、可能な限り、発表の場を公開していきたいと考えている。さらに、生徒の表現力は、ICT 機器の利用とともに格段に磨かれており、ごく日常的な活動の中でも定着している。こうしたスキルの向上も、この項目の高い評価に結びついているものと考えている。

Q5 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。 全体 3.21 高校 3.20 中学 3.22

この設問も昨年度と同様、直接様子を見ていただける機会が有効に使われている状況を反映したものとなっていると考えられる。授業の公開（授業参観など）については数多く実施することはできないが、保護者の皆様に見ていただくこと自体に重要な意味があることを再確認しながら進めていきたい。

Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。 全体 3.36 高校 3.35 中学 3.37

ホームページでは、部活動等で成果をあげた生徒の活躍に限らず、様々な活動の様子を掲載するようにしている。さらに、副校長ブログも日々の学校の様子を伝える上で大切な役割を果たしているものと考えている。今後、

たとえば、図書館での取り組みなど、目立たない日常についても、何等かの形で伝えることにも注目してもらうことができれば、さらに理解が深まっていくものと考えている。なお、SAIL プログラムなどについても、多様な取り組みを紹介することができた。

Q7 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口(養護教諭、カウンセラー等)がある。 全体 3.08
高校 3.09 中学 3.06

実際に保健室を頻繁に利用する必要がある生徒は、限定的な存在であることから、やや答えにくい質問である点是否めないが、心身の健康相談は、基本的に保健室が窓口となり丁寧に対応している。とくに、生徒本人に限らず保護者の皆様にも広く扉が開かれていることについては、都度、状況に応じて連絡しているが、より広い意味で、相談以前の心の健康について話を聞かせるような場を設けることについて検討していきたい。

Q8 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。全体 3.1 高校 3.1
中学 3.09

今年度も複数のクラスでインフルエンザによる学級閉鎖を行った。こうした状況については、父母の会の意見交換会などで情報共有についての要望があり、これに応えた形で、学年全体への連絡なども行った。感染症対策については、日頃の手洗いなどについて、あらためて呼びかけていくことも必要なのかもしれない。また、ケガの状況は、例年と大きく変わっておらず、体育のケガなどについてもあらためて対応の見直しを行った部分もある。生徒の体力や筋力の変化(低下)も相まって、予見がさらに難しくなっているが、安全な運営については、引き続き配慮していきたい。

Q9 お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。 全体 3.65
高校 3.62 中学 3.68

各種行事への取り組みは、それぞれ事前の準備が大切なものである。さまざまな形で関わる生徒がいるが、この設問に対する評価値は、昨年度(全体 3.60 高校 3.61 中学 3.58)よりも高いものとなった。毎年、同じように実施している行事ではあるが、関わる生徒たちが、それぞれの様子を家庭内で話題にしているような状況がうかがえる結果となった。また、その状況は Q4 などと合わせて力強い応援として我々には響いている。行事を通して成長していく姿が、今後も貴重なものとして受け取られるようにしていきたい。

Q10 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。全体 3.08 高校 3.24 中学 2.86

中学と高校で評価値の差が生じる項目ではあるが、高校での評価値が昨年度(3.57)よりもやや下がった点が気になる。中でも、高校1年生の評価値が3.18(昨年度 3.59)であったことについては、この高校1年生が中学3年生の時の評価値が2.80であった点も加味すると、やや上昇したともいえるが、全般的には満足できていない状況を反映しているのかもしれない。ガイダンスなど、力を入れた部分も評価値の上昇にあまり結びついていない。時間的な制約がある中で、生徒一人一人が考える機会が多く設定されていく高校2年生3年生につながるようにしていく必要がある。

Q11 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。

全体 2.99 高校 3.02 中学 2.95

全体的な評価値は、昨年度とほぼ同じ状況になっている。とくに、中2の評価値が低い点は、昨年と同じ状況を示しており、さまざまな問題が顕在化しやすい年齢を反映している状況が数字となって表れている。学校内では、さまざまな形で「モラル」や「マナー」について指導をしてきているが、なかなか浸透しない状況は続いており、ルール of 徹底についても呼びかけの中では理解されても実際の行動に結びつかない場面も多々あった。安全配慮との関連や、デジタルタトゥーといった問題などとも関連し、次々と現れてくる新しい事象への対応が難しい。家庭との協力なども、個々のレベルではうまく行っても、集団になるとなかなか進めにくい部分もある。

Q12 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。 全体 3.05 高校 3.07 中学 3.03

これまで「スマホ誓約書」を中心に、「やってはいけないこと」の徹底を行ってきた。しかし、SNS の利用が生徒にとって不可欠になっている状況が、生徒たちの大人には見えない部分を拡大していく傾向を作り続け、これがトラブルの元となっている。いわゆる歯止めが利かない状況は、学校外で展開されることが多く、生徒間のトラブルも家庭や学外での時間内におこることがほとんどである。こうした状況が、教員の時間を奪い続けていることについては、改善に道筋が見つからない。ごく基本的な人権についても、あふれる情報の中で語りかけていくことの難しさを感じている。

Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。全体 2.76 高校 2.79 中学 2.72

この項目も評価値が低い状態が続いており、昨年度(全体 2.76 高校 2.8 中学 2.71)とほぼ同じ値になった。学力をつけられる授業という点では、各教科の取り組みが中心となるが、いわゆるパフォーマンス評価も定着する中で、学力という言葉の定義については、教員間の目線を合わせ、生徒や保護者に向けて、それぞれの「おもしろさ」を伝えていく努力を重ねていく必要があると考えられる。いずれにしろ、引き続き「テストのための授業」という誤った考え方を乗り越えていく努力が求められる。

Q14 学校は、日々の教育活動で ICT 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。全体 3.07 高校 3.11 中学 3.02

昨年度高1から導入したノートパソコンについては、しっかりと定着しているという印象を持つ。キーボード操作なども問題なく行われるようになってきた。中学生も含めて、動画編集なども日常的に行われるようになっている。さらにAIの活用も急速に当たり前になっており、生徒が先行しているように感じる場面もあった。こうした変化がもたらす、負の側面についても、あらためて考えていくことが、積極的な利用を進める中で必要になっている。

Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 全体 2.74 高校 2.79 中学 2.68

各教科における目標設定は、年間、学期、単元、さらに、毎時、設定されるものなど、多様な意味合いで使われることが多いが、「～ができる」「～がわかる」に加えて、「～を伝える」「～を表現する」などの要素も大切にすることが求められている。その点では、各授業の中で「～を表現する」という要素が多く見られるようになってきたことを感じている。今後、こういった目標が「評価」と結びついていく流れが必要とされており、学力向上という言葉がテストの点数だけではないことを、伝える努力が足りていなかった点が反省点として残った。

Q16 「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 全体 2.97 高校 3.10 中学 2.73

毎年、定点観察のような形で、高2・3ゼミナールを見ていくと、それぞれの生徒のアプローチが向上していることがわかる。しかし、生徒たちが、基本的に、前の学年と比較する機会は少なく、かつ、保護者にそれを伝える機会も時間的な余裕もなかった。さらに、進路学習についても、「話を聞く」という体制が中心となっているが、「話を聞く」ことによって「わかったこと」を表現していく活動も行われているので、この部分をより充実させていくことが、課題発見の礎になると考えられる。

Q17 学校では、英語の外部検定に関して、中3までに英検準2級を取得すること、高2までに英検2級を取得すること(またはCEFRレベルB1に到達すること)に向けての学習活動が行われている。 全体 2.87 高校 2.93 中学 2.79

今年度より、高等学校で導入したGTECについては、事前学習を中心に、念入りな準備がなされた。実用英語検定試験との比較においても、英語の力を測るという意味では、あたらしいものさしを使った試みとなり、次年度以降につながる形をとることができたと考えている。中学の評価値が昨年度(2.92)と比べてやや下がってしまったが、今後、合格率との関係について、精査していくことにより、保護者の評価との関連を分析することが可能になると考えられる。引き続き、英語に関する外部検定の受験を一つの励みとして、実力をつけていけるようにしていきたい。

Q18 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。 全体 2.85 高校 2.86 中学 2.85

評価値もほぼ、昨年通り(2.88 高校2.86 中学2.90)の結果となった。いわゆる英語4技能に関しては、ここまで様々な取組が行われており、一つ一つの工夫(題材選びやその活用)も定着してきたと考えている。こうした状況からも、こうした安定してきた内容を、それぞれの特色として保護者の皆様に伝える機会が足りていないのが課題となっている。いわゆる英語の学習活動については、異文化理解、国際交流活動として力を発揮しつつあり、個々の生徒の学習意欲の向上につながるしかけについても、過去との比較といった形で提示していければ評価は高まると考えられるが、なかなかそのための時間と労力を割くことができない。

Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 全体 2.71 高校 2.71 中学 2.71

昨年度（全体 2.67 高校 2.67 中学 2.68）に比べると、わずかな評価値の上昇が見られたが、全体の中では、昨年度と同様、低い評価となっている。高2の理数コース選択者数は例年1クラス程度であるが、意欲的な生徒が見られる中で、評価値が上がらないのは、全体の中で、数学、理科に苦手意識をもつ生徒の割合が多いことを反映している。中学の理科の授業での取り組みなど、地道な努力は続けているが、全国的な中学での理科離れを根本的な部分は共通した理由が見受けられる。進学先として成城大学が第一候補となる生徒が多い中での理数系教育は、進路目標の設定とは異なる教科の意義や面白さを伝えるところに重点が置かれるので、本校にとっては引き続き難しい課題であると考えられる。

Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。全体 3.58 高校 3.58 中学 3.57
2016年の新校舎完成から10年目を迎え、教育内容に合わせた環境作りに努めてきた。保護者の方々にその取り組みが伝わり理解を得られていることに安心している。引き続き学習内容の充実と連動した環境整備にも取り組んでいきたいと考えている。

Q21 お子さんが部活動に参加している方へ:学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合はわからないとしてください。) 全体 3.37 高校 3.37 中学 3.36

部活動に関する項目で、高校では昨年度(3.28)に比べてやや上昇、中学では昨年度(3.34)とほぼ変わらない、比較的高い評価値となった。日々の活動が、概ね支持されているものと考えられる。一方で、安全面の配慮など、引き続き、生徒の活動を支える努力が必要となっており、とくに部活動の「時間」の確保が課題となっている。引き続き、より適切な運営について考えていく必要がある。

Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。 全体 3.38 高校 3.37 中学 3.39

この設問については、前年度(全体 3.27 高校 3.28 中学 3.25)よりやや高い評価値を得ることができた。非常に心強いご意見として大切に受け取っていききたい。さらに、教職員も、より多くの学外の人に「よさ」を伝えていく努力を重ね、受験生もしくはその保護者に限らず、「地域との結びつき」などに視点を移し、他校との交流なども深めていくことが大切だと考えている。

V まとめ

昨年の集計結果と比較すると大きな変化は見られないが、学習活動の項目に関して評価をいただいているとは言えない結果となり、早急に対応、改善していくことが必要である。特に学習意欲の喚起、進路に対する情報提供は中学校高等学校ともに評価も低く、6年間を通してキャリア形成を考えていく視点と取り組みが求められている。

生徒にとって学校が楽しい場所であると評価をいただいていることは、見守る学校側の姿勢も功を奏しているのだと受けとめたい。そのうえで、変わりゆく社会に生徒達が対応できるためのキャリア教育、論理的思考力を育む理数教育を中心に、主体的で意欲的な学びにつながる教育活動に努めていきたい。

学校関係者評価委員会 報告

5名の方にご意見をいただきました

Q1 評価値が高い項目

	質問項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
9	お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。	3.65	3.77	3.65	3.59	3.68	3.65	3.56	3.66	3.62
20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.58	3.65	3.56	3.48	3.57	3.56	3.56	3.64	3.58
3	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.53	3.62	3.48	3.47	3.53	3.52	3.52	3.57	3.54
4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.52	3.68	3.55	3.54	3.59	3.49	3.35	3.60	3.48
22	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.38	3.59	3.27	3.31	3.39	3.33	3.39	3.40	3.37

- A 保護者から見えやすい部分において評価が高いというのはとてもよいことだと思います。
- B 先生方のご尽力のお陰で日々安心して子どもを通わせていただいております。学校の理念や柱となる取り組みが評価に反映され素晴らしいと感じます。今後も継続して評価いただけますよう期待をしております。
- C いずれの学年も半数を大きく上回る数字となり、総体的に成城学園の明るく活気ある校風が伺える結果だと感じる。特に中学高校ともに卒業年度の3年生には、ぜひ悔いなくラストイヤーを満喫してもらいたい。次年度以降に4.0超えの数値となるために…学校から校内の様子をフランクな形で不定期でも発信してはどうか(広報的なイメージ)。父母の会と協力しても良いし、理解度が増して保護者との距離がぐっと近くなるように思う。
- D これは学園の強みがそのまま評価されていて素晴らしいと思いました。中2でいったん評価が低くなることも納得です。中学に入って多感な年ごろであり、悩みを抱えることが自然な時期です。とにかく人まみれになることが成城学園の強みであるので、この時期にたくさん人間臭い付き合いをし、しっかり揉まれて、きれいごとでは済まない経験もして、強い社会人になれる教育がされていることの証です。素晴らしいです。面倒を避ける事なかれ主義の世界ではなかなか実現が難しいです。先生方の努力の賜物です。
- E 評価値の高い項目の上位5項目のうち、4項目(9「行事に積極的に参加している」、20「施設・設備が整っている」、3「良い友達関係が築けている」、4「行事が発表の場となっている」)が昨年度と同様です。さらに、これら4項目はいずれも昨年度の得点を上回っており、保護者の満足度が一層高まっていることがうかがえます。この結果から、保護者は、生徒が学校において良好な友人関係を築きながら学校行事に積極的かつ意欲的に参加していることや、施設・設備を含めた教育環境が充実していることに対して満足していることがわかります。

また、昨年度は上位5項目に含まれていなかった項目22「本学園の良さを学外に伝えたい」が、今年度新たにランクインしていますが、この結果については、中学1年生の保護者による高い評価が影響していると思われます。総じて、生徒が安心して学校生活を送り、良好な友人関係のもとで学校行事に積極的に取り組むことができる環境が、学年を問わず確立されているという結果で、素晴らしいと思います。

なお、本調査は4点満点で評価されているので、例えば、項目9「行事に積極的に参加している」の全体平均は3.65点であり、100点満点に換算すると91.25点に相当します。学校ホームページや学校案内等の広報媒体において(平均91.25点などの)直感的にわかる数字を挙げて、積極的に学外および学内に発信したらよいのでは、と感じました。

Q2 評価値が低い項目

	質問項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
17	学校では、英語の外部検定に関して、中3までに英検準2級を取得すること、高2までに英検2級を取得すること(またはCEFRレベルB1に到達すること)に向けての学習活動が行われている。	2.87	2.81	2.66	2.92	2.79	2.85	2.91	3.04	2.93
18	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.85	2.99	2.68	2.87	2.85	2.78	2.82	2.98	2.86
13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	2.76	3.02	2.51	2.60	2.72	2.64	2.84	2.89	2.79
15	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指すような教育活動が行われている。	2.74	2.89	2.50	2.64	2.68	2.59	2.86	2.93	2.79
19	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.71	2.88	2.53	2.71	2.71	2.64	2.68	2.83	2.71

- A 中学2年生の数値が低めなのは、そのような年齢・時期と割り切るのも一つと思います。
- B 先日は授業を参観し、日頃より授業の準備や工夫をされていると感じ感謝申し上げます。子どもたちが主体的に学びに向かえるようなディスカッションや関わりが増えることで能動的で効果的な学びが実現するのではないかと期待しております。また、英語に関しては各ご家庭から学校への期待もありますが、4技能をバランスよく身に着けるためには長期的な継続が必要であると感じます。実践的な表現活動やオーストラリアスタディーツアーなどを経験し、興味を深めさらに学習意欲に繋がれることを期待しております。
- C まず、保護者が日常的な授業の様子を見る機会が少ないため、ほとんどが我が子あるいはその“仲良し”から聞く話で印象が作られるように思う。実際には若干のマイナスではあるが、こういった「マイナス要因」は授業の作り手にどんな影響があるだろうかと想像する。授業参観日を増やしてはどうか。評価に直結させるためではなく、生徒の主体的な学びやより高い理解・関心につながる工夫、人生を助ける幅広い知識と教養との出会いが、ひいては高い意欲+高い評価につながって行くようにと願う。
- D これは親が回答するアンケートであり、家庭の中での子供との会話が判断基準の中心になっていると思われるので、本当の判断が難しい。評価を上げることを目標にするのであれば、授業参観などによって親が自身の目で確かめられる機会を利用して授業方針などを伝える機会があればよい。例えば、山の学校が中2なので、理科の「天気」は中1（他校では中2）でやります。とか、判断基準は体力だけではありません。登山の最中は集団行動で互いに命を懸けているので、協調性なども指標です。などの教育方針は本当に感動して伺った記憶があります。「山登り」が目的ではなく、そこに行くまでに教育は始まっており、その後「こんな人間になって」と言うメッセージまでが成城教育の理念として一貫しており、「だから山学を大切にしているのか」と納得しました。ただ、その様な説明も、おそらく伝える先生によって差があるのではないのでしょうか。授業内容もしかりかもしれません。教職員教育として、授業のやり方と言う「技術」もさることながら、「学校としての理念がどう実際の授業に反映されているのか」を語れる「成城学園」の教員が増えると、教職員力も自然と向上すると同時に、親の理解や学校への共鳴が格段に上がるのではないかと思います。実際に絶対良い教育をされているので。
- E 評価が低い項目について昨年度の結果と比較したところ、4項目は昨年度と共通していました。具体的には、19「科学的思考力を高める教育活動」、18「英語力の伸長に向けた教育活動」、13「学力を身につけられる授業」、15「学力向上を目指す教育活動」です。これらの項目はいずれも授業や教育活動の内容・成果に関するものであり、生徒にとっては日常的に実感しやすい一方で、保護者にとっては直接把握しにくい側面をもつと考えられます。そのため、評価が相対的に低い背景には、教育活動の質そのものというより、学校が実施している教育活動や授業内容が保護者へ十分に伝わっていない可能性も考えられます。そこで、学校ホームページ、学校だより、学年通信、説明会等を通じて積極的に発信することで、保護者の理解や評価の向上につながることを期待されます。

また、学年別の結果を見ると、中学2年生の評価が最も低いですが、この結果については、中学2年時の保護者に対する授業や教育活動の情報発信の機会や量が、他学年と比較して相対的に少なくなっているのか、それとも中学2年生という子どもの発達段階が影響しているものなのかなど、検証が必要かと思いました。一方、高等学校では、高校1年生から高校3年生にかけて多くの項目で評価が段階的に上昇している傾向が見られ、進路指導や学習指導に関する説明会、面談、各種通信等を通じた学校からの情報発信が学年進行に

伴って増加していることなどが要因として考えられるのかもしれません。

Q3 中学で相対的に評価値が低い項目

	質問項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
10	上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。	3.08	2.99	2.65	2.94	2.86	3.18	3.22	3.34	3.24
16	「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.97	2.89	2.45	2.85	2.73	2.88	3.16	3.25	3.10

- A 中高一貫校であるため、中学の評価値が低くても、項目を見ると問題ないかと感じました。高校3年生になるにつれて評価が上がっているのでもいいのではないかと思います。
- B 上位校に関する情報提供に感謝いたします。個人的には先日为学校型選抜等の説明会を中学の保護者も参加できるとよいのではと思いました。今後さらに具体的でわかりやすい情報発信が進むことで子どもたちや保護者にとってより安心感につながるのではと期待しております。
- C 上位学校の情報提供について、中学生は学校から発信があってもまだまだ先のことであり関心が薄い可能性も…。進路的な情報提供はあっても、上位学校とのコミュニケーションが足りていないのかもしれない。クラスや学年を超えて、同じテーマ・活動をする場が見えてくると良いように思う。保護者が一番見えていないだけなのかもしれないが。
- 今の子どもたちは、入学したての中1から進路や成績の話（主に外部受験のため）を度々聞かされているように思える。早いうちに目標を立てることは将来の希望を考える良い機会になると思うので、表面的な情報にならないように、逆算して「今、何を身につけるべきか」を提示したり、一つのことを掘り下げる学びの機会をさらに推し進めてほしい。それが身近な先輩からの提言だと、課題も自分ごとになりやすいのではと考える。
- D 10に関して、高校になると必然的に進路の指導やクラス分けなど、上位校に対する情報が多くなること、関心が多くなることで、満足度が高くなり、中学は中高一貫校であることもあり、「継続性」の中で高校の存在が自然になりすぎて情報量が少ないと感じるのではないかと思います。学校からの発信として、必要な情報の優先順位にも関係しているかもしれません。中学はいわゆるチームビルディングの様な要素に重点を置く時期と思われるので、気になる評価結果ではありませんでした。16に関しては、生徒の力量によってかなり差が出るとは思いますが、上位学年に進むにつれて数値が上がっている事が良いです。
- E 近年は進路選択の多様化が進んでおり、中学生段階から将来の生き方や職業観を育成するキャリア教育の重要性が高まっていることを感じました。

Q4 「全体を通してのご意見・ご感想」「今後への提言」をお書きください。

- A 先生方には熱心にご指導いただいていると思っております。それが保護者に伝わるような情報共有の方法（WEBでお知らせの活用、授業参観の見せ方など）を工夫していただくによりよくなるように思います。
- B 学校評価アンケートを通じて、日頃から子どもたちの成長のためにご尽力いただいている先生方の姿勢に、心から感謝いたします。また多くの項目において学校の方針や取り組みが浸透しており、安心して子どもを通わせることができていることを実感しております。
- 一方で、一部の項目では保護者の期待との間に小さなギャップが見られる点もありました。これは、今後さらに対話や情報共有を深めることで解消していけるものと思います。
- これからも子どもたちの主体性を育む学びや英語等現代のニーズに即した教育の一層の充実と、保護者と学校がこれまで以上に協力し合い、子どもたちが学びを深められる環境作りをこれからも期待しております。
- C 世の中に、いわゆる難関校進学が正義！メジャー路線！という風潮が根強くある。学力的な学びは学校なので当然としても、成城学園ならではの教育を今一度考えたい。
- 成城学園は『個性尊重の教育』が謳われており、成城学園といえば…の活発な生徒ばかりのイメージがある

が、普段は控えめだけれど実はユニークで新しい視点の持ち主だったとか、文化祭のポスターを描いてもらった右に出る者がいなかった、みたいな生徒が大勢いるはず。

公的な発表の場に限らず、そんな愉快な個性が見えると「この学校、面白いじゃないか」「みんな、がんばれ！」となりそう。別の設問への回答と重なる上に、教員の方々のご負担必須な提案だが、当たり前ではないシーンが垣間見える時、きっと成城のコアファンが増えるに違いない、と考えている。

- D この様な場を何回か経験させて頂いて思うのは、思いのほか保護者の方が正直に回答されているのではないかと、いう事です。これはよいことだな、と思います。また、このアンケートはあくまでも保護者のアンケートなので、非常に主観的な感情が反映されている事もあると思います。この結果を教育現場の参考にして頂くことはもちろん大切なことと思いますが、数値に引っ張られることなく、教育内容や成績の順位を発表しない事など、信念をもってやられている事は毅然として成城教育を貫いていただきたいと思います。また、それを「信念です」としっかり伝えることは必要だと思いますので、上手に工夫していただければもっともっとご評価高まるのに…と悔しい思いもありました。中高は保護者が子供との距離感で悩む時期でもあり保護者が子供の成長を促す存在でもあると同時に阻害してしまう存在でもあることを痛感します。どんどん「自分の世界」を作って巣立つ準備を始める時期ですので、親と子の「程よい距離感」についての親の勉強会などがあるとよいかもしれません。スクールカウンセラーも、子より親が必要としているのではないかとと思う事が多々あります。子供が1人や2人では、親も親として素人さんだよね、と思ったりもします。子供が泣いていればもちろん心を痛めるのが親ですが、そんな経験もしないで成長する事の方が余程恐ろしいのです。それでも、つい、親も素人さんなのでおろおろしてしまいます。その様な時は保護者に対して「この時期には当たり前」「ここは学校に任せて口出ししないで」とびしゃりと言って頂くことも有難いです。

- E アンケートの結果からは、施設・設備の充実、学校行事への満足度、良好な友人関係の形成など、生徒の学校生活に関わる項目に対して極めて高い評価が示されており、項目22（学外の人に伝えたい）の評価が高いことから、保護者が本校に対して強い信頼感と満足感を抱いていることがうかがえます。

一方で、理数教育や情報教育、学力向上に関する項目については、相対的に評価が低い傾向が見られました。今後、日常の授業実践や学習成果、理数・情報教育をはじめとする特色ある教育活動について、一層、保護者に対して分かりやすく発信していく取り組みを行うことで、保護者の学校理解、学校全体に対する満足度の、さらなる向上につながると思います。

【委員長より総括】

このたびの学校評価委員会では、学校評価アンケートの結果をもとに、活発な意見交換が行われました。全体としては、学校行事への積極的な参加、良好な友人関係、充実した施設・設備など、生徒が安心して学校生活を送り、成城学園らしい豊かな教育環境の中で成長していることに対する保護者の高い評価が確認されました。また、「本学園の良さを学外の人に伝えたい」という項目の評価が高かったことは、保護者の学校への信頼と愛着の表れであり、大変喜ばしい結果であると考えます。

一方で、授業内容や学力向上、英語教育、理数教育などに関する項目については、相対的に評価が低い結果となりました。しかし、委員からは「教育活動そのものへの評価というよりも、保護者が日常の授業や教育内容を知る機会が限られていることも一因ではないか」との意見が多く出されました。教育活動やその背景にある理念、子どもたちの日々の学びを、学校から継続的かつ分かりやすく発信していくことで、保護者の理解と共感はさらに深まるものと期待されます。

また、多くの委員が共通して述べていたのは、数値だけにとらわれることなく、成城学園が長年培ってきた澤柳先生の理念に基づく教育を今後も着実に実践していただきたいということでした。その教育の価値を学校と保護者が共有し、ともに子どもたちの成長を支えていくことが、より良い学校づくりにつながるものと考えます。

委員会での意見が、今後の教育活動及び学校運営のさらなる充実につながることを期待し、委員会の総括いたします。

令和7（2025）年度 学校評価アンケート 初等学校 自己評価について

●はじめに

2024年度に引き続き、初等学校の教育活動に理解と協力を頂いている保護者を対象に学校評価アンケートを実施させていただきました。保護者アンケートの集計結果を十分に参考にし、本校の教育活動のさらなる向上につなげていきたい。

●学校評価保護者アンケート実施

- ・実施期間：2026年1月15日(木)～1月30日(金)
- ・対象：初等学校全保護者 「初等ネット」にてアンケートを配信
- ・アンケート回収率：62.5%（348件／557世帯の回答あり）
- ・アンケート項目

1) 下記①～⑤の25項目について、回答者が満足度について回答する。

【満足度】①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない

2) 「自由意見結果一覧」(関係者部内秘扱い)

●保護者アンケート集計結果の読み取り

※青字は85%前後の肯定率である。

【①学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている】

①	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	
①とてもそう思う		122 35.1%
②ややそう思う		169 48.6%
③あまりそう思わない		38 10.9%
④そう思わない		12 3.4%
⑤わからない		7 2.0%
合計		348 100.0%

「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は84%にあたる。

【②お子さんは、学校で良い友達関係を築いている】

②	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	
①とてもそう思う		187 53.7%
②ややそう思う		130 37.4%
③あまりそう思わない		23 6.6%
④そう思わない		4 1.1%
⑤わからない		4 1.1%
合計		348 100.0%

「お子さんは、学校で良い友達関係を築いている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は91%にあたり、高い評価を得ている。

【③学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている】

③	学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。	
①とてもそう思う		269 77.3%
②ややそう思う		65 18.7%
③あまりそう思わない		11 3.2%
④そう思わない		2 0.6%
⑤わからない		1 0.3%
合計		348 100.0%

「学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は96%にあたり、高い評価を得ている。

【④学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている】

④	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	
①とてもそう思う		269 77.3%
②ややそう思う		70 20.1%
③あまりそう思わない		7 2.0%
④そう思わない		2 0.6%
⑤わからない		0 0.0%
合計		348 100.0%

「学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は96%にあたり、高い評価を得ている。

【⑤お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる】

⑤	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。	
①とてもそう思う		162 46.6%
②ややそう思う		114 32.8%
③あまりそう思わない		44 12.6%
④そう思わない		13 3.7%
⑤わからない		15 4.3%
合計		348 100.0%

「お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる」の項目に対する、①②の肯定的な反応は79%にあたる。

【⑥感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている】

⑥	感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	
①とてもそう思う		188 54.0%
②ややそう思う		125 35.9%
③あまりそう思わない		27 7.8%
④そう思わない		6 1.7%
⑤わからない		2 0.6%
合計		348 100.0%

「感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は90%にあたり、高い評価を得ている。

【⑦特色ある教育活動が行われている】

⑦	特色ある教育活動が行われている。	
①とてもそう思う		278 79.9%
②ややそう思う		62 17.8%
③あまりそう思わない		6 1.7%
④そう思わない		1 0.3%
⑤わからない		1 0.3%
合計		348 100.0%

「特色ある教育活動が行われている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は98%にあたる。①の反応が80%あり、保護者がとても満足していることが伺える。

【⑧学校は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている】

⑧	学校は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている。	
①とてもそう思う		121 34.8%
②ややそう思う		142 40.8%
③あまりそう思わない		31 8.9%
④そう思わない		7 2.0%
⑤わからない		47 13.5%
合計		348 100.0%

「学校は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は76%にあたる。

【⑨学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある】

⑨	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	
①とてもそう思う		255 73.3%
②ややそう思う		83 23.9%
③あまりそう思わない		8 2.3%
④そう思わない		1 0.3%
⑤わからない		1 0.3%
合計		348 100.0%

「学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある」の項目に対する、①②の肯定的な反応は97%にあたり、高い評価を得ている。

【⑩本学園の良さを学外の人に伝えたい】

⑩	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	
①とてもそう思う		198 56.9%
②ややそう思う		114 32.8%
③あまりそう思わない		15 4.3%
④そう思わない		11 3.2%
⑤わからない		10 2.9%
合計		348 100.0%

「本学園の良さを学外の人に伝えたい」の項目に対する、①②の肯定的な反応は90%にあたり、高い評価を得ている。

【⑪学校は、父母の会との連携をとり、教育活動を行っている】

⑪	学校は、父母の会との連携をとり、教育活動を行っている。		
①とてもそう思う		200	57.5%
②ややそう思う		115	33.0%
③あまりそう思わない		12	3.4%
④そう思わない		6	1.7%
⑤わからない		15	4.3%
合計		348	100.0%

「学校は、父母の会との連携をとり、教育活動を行っている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は91%にあたり、高い評価を得ている。

【⑫学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、一人ひとりの個性を尊重する教育活動に努めている】

⑫	学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、一人ひとりの個性を尊重する教育活動に努めている。		
①とてもそう思う		196	56.3%
②ややそう思う		119	34.2%
③あまりそう思わない		20	5.7%
④そう思わない		7	2.0%
⑤わからない		6	1.7%
合計		348	100.0%

「学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、一人ひとりの個性を尊重する教育活動に努めている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は90%にあたり、高い評価を得ている。

【⑬学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている】

⑬	学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている。		
①とてもそう思う		253	72.7%
②ややそう思う		80	23.0%
③あまりそう思わない		10	2.9%
④そう思わない		2	0.6%
⑤わからない		3	0.9%
合計		348	100.0%

「学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は96%にあたり、高い評価を得ている。

【⑭学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている】

⑭	学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている。		
①とてもそう思う		235	67.5%
②ややそう思う		98	28.2%
③あまりそう思わない		10	2.9%
④そう思わない		3	0.9%
⑤わからない		2	0.6%
合計		348	100.0%

「学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は95%にあたり、高い評価を得ている。

【⑮学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている】

⑮	学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている。		
①とてもそう思う		184	52.9%
②ややそう思う		114	32.8%
③あまりそう思わない		24	6.9%
④そう思わない		5	1.4%
⑤わからない		21	6.0%
合計		348	100.0%

「学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は88%にあたる。

【⑯お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している】

⑯	お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。		
①とてもそう思う		244	70.1%
②ややそう思う		85	24.4%
③あまりそう思わない		10	2.9%
④そう思わない		3	0.9%
⑤わからない		6	1.7%
合計		348	100.0%

「お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している」の項目に対する、①②の肯定的な反応は94%にあたり、高い評価を得ている。

【⑰お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している】

⑰	お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。		
①とてもそう思う		285	81.9%
②ややそう思う		53	15.2%
③あまりそう思わない		7	2.0%
④そう思わない		2	0.6%
⑤わからない		1	0.3%
合計		348	100.0%

「お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している」の項目に対する、①②の肯定的な反応は97%にあたる。①の反応が82%あり、保護者がとても満足していることが伺える。

【⑱お子さんは、劇・城や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している】

⑱	お子さんは、劇・城や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。		
①とてもそう思う		257	73.9%
②ややそう思う		72	20.7%
③あまりそう思わない		9	2.6%
④そう思わない		6	1.7%
⑤わからない		4	1.1%
合計		348	100.0%

「お子さんは、劇・城や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している」の項目に対する、①②の肯定的な反応は95%にあたり、高い評価を得ている。

【⑱美術、舞踊、音楽、映像、体育、文学、劇、城の授業を通じ、豊かにお子さんの情操が育まれていると感じている】

⑱	美術、舞踊、音楽、映像、体育、文学、劇、城の授業を通じ、豊かにお子さんの情操が育まれていると感じている。	
①とてもそう思う		247 71.0%
②ややそう思う		89 25.6%
③あまりそう思わない		5 1.4%
④そう思わない		1 0.3%
⑤わからない		6 1.7%
合計		348 100.0%

「美術、舞踊、音楽、映像、体育、文学、劇、城の授業を通じ、豊かにお子さんの情操が育まれていると感じている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は97%にあたり、高い評価を得ている。

【⑳進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている】

⑳	進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。	
①とてもそう思う		61 17.5%
②ややそう思う		114 32.8%
③あまりそう思わない		83 23.9%
④そう思わない		34 9.8%
⑤わからない		56 16.1%
合計		348 100.0%

「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は50%にあたる。5年生時の学園中学校見学会や、6年生時の合同保護者会で多くの情報が提供されるため、このような結果になっていると考える。

【㉑学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である】

㉑	学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。	
①とてもそう思う		204 58.6%
②ややそう思う		123 35.3%
③あまりそう思わない		15 4.3%
④そう思わない		5 1.4%
⑤わからない		1 0.3%
合計		348 100.0%

「学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である」の項目に対する、①②の肯定的な反応は94%にあたり、高い評価を得ている。

【㉒英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている】

㉒	英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている。	
①とてもそう思う		49 14.1%
②ややそう思う		130 37.4%
③あまりそう思わない		98 28.2%
④そう思わない		29 8.3%
⑤わからない		42 12.1%
合計		348 100.0%

「英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は52%にあたる。この項目に関しては、以前から肯定率が低い。

【②数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている】

②	数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている。		
①とてもそう思う		103	29.6%
②ややそう思う		142	40.8%
③あまりそう思わない		52	14.9%
④そう思わない		9	2.6%
⑤わからない		42	12.1%
合計		348	100.0%

「数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は71%にあたる。

【④学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている】

④	学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている。		
①とてもそう思う		164	47.1%
②ややそう思う		154	44.3%
③あまりそう思わない		15	4.3%
④そう思わない		4	1.1%
⑤わからない		11	3.2%
合計		348	100.0%

「学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は91%にあたり、高い評価を得ている。

【⑤学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている】

⑤	学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。		
①とてもそう思う		260	74.7%
②ややそう思う		78	22.4%
③あまりそう思わない		5	1.4%
④そう思わない		2	0.6%
⑤わからない		3	0.9%
合計		348	100.0%

「学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている」の項目に対する、①②の肯定的な反応は97%にあたり、高い評価を得ている。

〈考 察〉

648名(639名中 世帯数557世帯 特別退学を除く)557世帯中348世帯、62.5%の世帯が回答をしている。

※青字は85%以上の肯定率である。黒字は70%台、赤字は50%台の肯定率を示している項目である。

【①学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている】

【②お子さんは、学校で良い友達関係を築いている】

【③学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている】

【④学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている】

【⑤お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる】：**79%**

【⑥感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている】

【⑦特色ある教育活動が行われている】

【⑧学校は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている】：**76%**

- 【⑨学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある】
- 【⑩本学園の良さを学外の人に伝えたい】
- 【⑪学校は、父母の会との連携をとり、教育活動を行っている】
- 【⑫学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、一人ひとりの個性を尊重する教育活動に努めている】
- 【⑬学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている】
- 【⑭学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている】
- 【⑮学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている】
- 【⑯お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している】
- 【⑰お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している】
- 【⑱お子さんは、劇・城や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している】
- 【⑲美術、舞踊、音楽、映像、体育、文学、劇、城の授業を通じ、豊かにお子さんの情操が育まれていると感じている】
- 【⑳進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている】：50%
- 【㉑学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である】
- 【㉒英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている】：52%
- 【㉓数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている】：71%
- 【㉔学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている】
- 【㉕学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている】

初等学校のアンケート中、数多くの項目で85%以上の肯定的な反応を得ている。70%台の反応を示す項目は以下の3項目であり、50%台の肯定的な反応を示している項目は以下の2項目である。

〈70%台の反応の項目〉

- 【⑤お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる】：79%
- 【⑧学校は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている】：76%
- 【㉓数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている】：71%

〈50%台の反応の項目〉

- 【⑳進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている】：50%
- 【㉒英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている】：52%

⑳『進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている』に関しては、5年時の中学校見学と6年時の合同保護者会での情報共有が主な場となっている。この項目に関する昨年の肯定的な反応率は49%であった。反応率が昨年とほぼ変わらないことから、継続した努力が必要だと考える。㉑の「わからない」の反応は昨年度が15%、今年度が16%の割合をしめることから、子ども達の学びの実態を伝える更なる工夫をしていく必要があると考える。

㉒に関しては、昨年度の肯定的な反応率が54%であった。今年の肯定的な反応は52%である。昨年度に続き、低い反応率となっている。㉒の「わからない」の反応は昨年度が11%、今年度が12%の割合をしめることから、㉑の項目同様、子ども達の学びの実態を伝える更なる工夫をしていく必要があると考える。

以上

学校関係者評価委員会 報告

成城学園初等学校 学校関係者評価委員会（以下、本委員会）は、令和 7 年度 成城学園初等学校 学校関係者評価の結果を以下の通り報告いたします。

I 自己評価委員会の評価基準について

初等学校の学校評価アンケートは、回答者が各質問項目に対する答えを 5 段階で回答することになっている。自己評価委員会は、肯定的評価が 85%以上の項目を保護者から高く評価されている項目、70%台の項目を評価はされているが改善の余地がある項目、それ以下を反省、改善が必要な項目としている。

この自己評価委員会の基準を、本委員会は妥当なものである、と評価する。70%台の保護者から高評価を受けている項目をも改善の余地ありとするのは、自己に厳しい基準であるとする。また評価の低い項目に対して付されているコメントについても妥当なものであると評価した。

II 保護者アンケートで高評価を得た項目に対する自己評価について

自由記述以外の全 25 項目のうち、85%以上の肯定的評価を得た項目は、20 項目ある。つまり 8 割以上の項目で肯定的評価を得ていることになる。初等学校の教育が保護者に受け入れられていることが判然としている。これらに対する自己評価委員会の評価は適切である、と評価する。

昨年度も同様であるが、本学園の教育の核心である四綱領に関する質問項目（⑫個性尊重の教育、⑬自然と親しむ教育、⑭心情の教育、⑮科学的研究を基とする教育）の肯定的評価が全て 85.7%以上になっているのは、初等学校が成城教育を現代に合う形で継承していることの証左である。

学校という場に保護者が期待することは心身の健全な成長のサポートと学力の伸長だろう。質問項目の②⑥⑬⑭は心身の健全な成長に不可欠な友人・先輩・後輩との関係や健康・安全について問うているが、このいずれもが 91.4%の肯定的評価を受けている。また、質問項目①は「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」か否かを問う項目であるが、83.7%の肯定的評価を得ている。つまり、保護者の学校に対する期待に初等学校は応えられていると言えるだろう。

また、これも昨年同様ではあるが、初等学校がその教育内容を保護者にうまく発信している様子もアンケート結果（③④⑪）から伺うことができる。情報公開、情報発信がうまくいっているからこそ保護者も「学校評価アンケート」に答えられるのだろう。学校の様子がよくわかることが、保護者の安心や学校に対する信頼につながっていると考ええる。

学校行事が児童の豊かな情操形成や人間関係の構築につながっていると考えている保護者が多いのも初等学校の特徴である（項目⑰⑱⑲より）。これらの優れた実践が今後も継続されることを期待する。

Ⅲ 保護者アンケートで低評価を得た項目に対する自己評価について

ここでの「低評価を得た項目」とは、肯定的評価が 50%台である項目である。具体的には、⑳「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」、㉑「英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」の 2 項目である。この二項目は、昨年に引き続き低い評価となった。これらについての自己評価委員会の評価は、概ね適切である。以下、各項目の自己評価委員会の評価に対する本委員会の評価を述べる。

Ⅲ-1

㉑「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」の評価について

自己評価委員会は、「5 年次の中学校見学と 6 年時の合同保護者会での情報共有が主な場となっている。この項目に関する昨年の肯定的な反応率は 49%であった。反応率が昨年とほぼ変わらないことから、継続した努力が必要だと考える」としている。

これに対し本委員会は次のように考える。学校評価アンケートは 1 年生から 6 年生までの全児童の保護者が対象であるが、学園中高に対する関心が強いのは 5, 6 年生の保護者であるだろう。かりに 4 年生以下の児童や保護者に学園中高への進学について説明をしたとしてもまだ先の話としてあまり関心が持たれないのではないだろうか。したがって、この質問は高学年の児童の保護者のみを対象とすべきである。

「継続した努力」の対象とすべきは、5, 6 年生に対する中高の紹介だろう。昨年度も提言したが、「大人による」中学校見学や合同保護者会だけでなく、初等学校の卒業生である中学 1 年生や高校 1 年生に初等学校を訪問してもらい、彼らから中高での生活を児童や保護者が聴く機会を設ければ、一層中高に対する関心、理解が高まると考える。

Ⅲ-2

㉑「英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」の評価について

肯定的評価が 51.5%という評価に対して、自己評価委員会は「……昨年度に続き、低い反応率となっている。㉑の「わからない」の反応は昨年度が 11%、今年度が 12%をしめるこ

とから、⑳の項目同様、子どもたちの学びの実態を伝える更なる工夫をしていく必要があると考える」という分析をしている。

この評価に対し、本委員会では「英語の授業の成果を発表する場が設けられていないのではないか」「英語の授業の成果は授業を見学しなければ把握しづらい」という意見が出た。高学年になると英語の授業は教室ではなく「英語のへや」で実施されており、保護者にとって授業参観のハードルが教室より少し高く感じられることも、授業の成果を保護者が感じにくいことの背景としてあるだろう。

これらの意見と自己評価委員会の「子どもたちの学びの実態を伝える更なる工夫をしていく必要がある」という言葉とを合わせて考えると、初等学校の英語の授業を通して児童たちはある程度英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるようになってはいるものの、保護者がそれを実感できる機会が無いということになる。そこで、昨年度も提言したが音楽の授業で英語の歌を歌ったり、劇の一部に英語の台詞を導入したりなどして子どもたちの英語力の向上を保護者が感じられるようにしてはどうだろうか。

また、㉒の質問自体を変更することも提案したい。初等学校時代の英語教育では「英語や英語を話す人々とその文化に関心を持つ」ことが重要であると考え。初等学校時代にそのような関心を強く持つことができれば、中学に進学してからの英語の授業にも意欲的に取り組むことができるだろう。その関心は地球市民に不可欠な異文化理解に関与するものであることは言を俟たない。そこで、質問を「英語の授業を通じて、英語や異文化に関心を持つことができるような授業を行っている」と変更し、英語を使えるようになることを目的とするのではなく、先述した関心を高めることを目的とした授業を行って頂くことを希望する。

IV おわりに

IIで述べたことと重複するが、令和 7 年度学校評価アンケートからは、初等学校の教育が多く保護者から支持されていることがよくわかった。質問項目⑩「本学園の良さを学外の人に伝えたい」の肯定的評価が 89.7%であることが素晴らしい。今回のアンケートで寄せられた保護者の意見を活用して初等学校がさらに児童にとって素晴らしい環境になることを願っている。

令和 7（2025）年度 学校評価アンケート 幼稚園 自己評価について

●はじめに

▶2025 年は幼稚園創立 100 周年の記念すべき年度であった。ただし園としては特別な式典などはおこなわず、粛々と日々の保育の業務を丁寧に実施することに心がけた。教育研究所が文化祭の前後で学園の砦移転 100 年と幼稚園創立 100 年を組み合わせた企画を催し、それに協力する形で園の 100 周年を祝うことになった。

幼稚園の活動は時代の変化に注目しつつも、それに振り回されるのではなく幼児が身につけるべき普遍的な能力の開発と個々の園児の成長を目標とし、有効なプログラムを丁寧に確実に実施していくことが肝要である。そういう点では、成城幼稚園のこの 1 年間の教育は十分な成果をあげてきたと自負している。

昨年度より初中高と相談の上、アンケートの回答選択肢に⑤として「わからない」を追加したが、今年度もそれを踏襲した。

また昨年度までは Q21「（保護者は）自分自身でマナーの向上に取り組んだ」という質問項目があったが、学園の業務に対して評価していただくアンケートの質問としては不向きであろうと考え、今年度からは削除し、ひとつずつ番号を詰めることにした。

●学校目標（第 3 次中期計画）

Ⅰ．教育活動

（A）国際教育

（a）語学教育

- 1）外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2）英語の音、響き等に対する感覚を身につけ、実践しようとする。
- 3）学園英語一貫教育の入口として、初等学校以降へのスムーズな接続を図る。

（b）国際交流

- 1）世界を知る第一歩として、まず日本の文化を体験し、理解させる。
- 2）英語を通して他国の存在を知るとともに、その文化への興味・関心を持ち、理解を深める。
- 3）英語以外にも多くの言語が世界に存在することを知るとともに、英語圏以外の文化への興味・関心を持ち、理解を深める。

（B）理数系教育

（a）論理的思考力

- 1）自分の主張を伝える力をつける。
- 2）相手の考えを聴く力を養う。
- 3）解決策を考える力を育てる。
- 4）計画的に物事に取り組む力を育てる。

（b）デジタルスキル

- 1) ICT の楽しさを体感させる。
- 2) 子どもたちの興味関心、理解促進のために、日々の活動にデジタル技術を取り入れる。
- 3) 情報を整理、分析したり、判断する力を育てる。
- 4) ICT 機器を扱う際の適切な使い方（態度やマナー、モラル）を身につけさせる。

(c) 科学教育・環境教育

- 1) 自然への関心を育てる。
- 2) 植物の生長への興味・関心を育てる。
- 3) 自然科学への興味・関心を育てる。

(C) 情操・教養教育

- 1) 子どもたちの想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。
- 2) 友達と一緒に協力して行うことの楽しさを知り、その感覚を養う。
- 3) 芸術に対する感受性を育て、さらにその能力を伸ばし、創造力や表現力等の感性を磨く。

(D) 学校独自の分野

- 1) 恵まれた自然環境の中で、自然に触れ、五感を使って感性を磨き、実体験を増やす。
- 2) クラス学年を超えた集団生活を通して人とのつながり、共に生活することの意味を学ぶ。
- 3) 英語、美術、体操の三分野の能力のさらなる向上を図る。

Ⅱ. 研究活動

- 1) 幼児教育についての研究成果に基づいた保育の研究・実践を目指す。
- 2) 新教育要領に対応した成城カリキュラムの改善。
- 3) ポストコロナの新しい幼児教育のあり方を考える研究プロジェクトの立ち上げ。

Ⅲ. 社会連携活動

成城地域の人の協力を得ながら、地域社会が行っていることへの、子どもたちの理解を深める。

●学校評価アンケート

- Ⅰ. 実施期間：2026 年 1 月 15 日～1 月 30 日
- Ⅱ. 対象：幼稚園 全保護者 「幼稚園ネット」にて配信
- Ⅲ. アンケート項目

下記 Q1～Q22 について、調査対象者が①～⑤を選択して回答する。

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない ⑤わからない

- Q 1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。
- Q 2 お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。
- Q 3 登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。
- Q 4 行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。
- Q 5 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。
- Q 6 感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。
- Q 7 特色ある教育活動が行われている。
- Q 8 ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。
- Q 9 施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。
- Q10 本園の良さを学外の人に伝えたい。
- Q11 英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。

- Q12 筋道立てて考える力を養う教育が行われている。
- Q13 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。
- Q14 情操・教養を伸ばす教育が行われている。
- Q15 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。
- Q16 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。
- Q17 丁寧な子どもの観察が行われている。
- Q18 子どもたちについての情報が十分共有されている。
- Q19 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。
- Q20 人間関係を大切にしたい教育が行われている。
- Q21 保護者全体のマナーが向上した。
- Q22 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。

Ⅳ. 集計結果より

1) 回答数（分母は在籍園児数）

年少 40／40	年中 31／39	年長 27／39	合計 98／118
----------	----------	----------	-----------

2) 回答結果（枠内の数値は、小数点以下を四捨五入したパーセンテージ（％）数値。）

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない ⑤わからない

Q	質 問 項 目	①	②	③	④	⑤
1	学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。	84	12	0	1	3
2	お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。	74	21	3	0	2
3	登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。	78	18	3	1	0
4	行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。	90	6	3	1	0
5	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。	76	16	5	2	1
6	感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	70	27	2	0	1
7	特色ある教育活動が行われている。	82	16	2	0	0
8	ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。	35	32	13	5	15
9	施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。	84	15	1	0	0
10	本園の良さを学外の人に伝えたい。	83	14	0	1	2
11	英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。	66	29	2	2	1
12	筋道立てて考える力を養う教育が行われている。	60	27	4	2	7
13	自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。	89	10	1	0	0
14	情操・教養を伸ばす教育が行われている。	82	15	2	1	0
15	様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。	90	9	0	1	0
16	伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。	92	7	0	1	0
17	丁寧な子どもの観察が行われている。	84	13	2	1	0
18	子どもたちについての情報が十分共有されている。	75	18	3	4	0

19	一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。	75	18	3	2	2
20	人間関係を大切にした教育が行われている。	81	14	1	1	3
21	保護者全体のマナーが向上した。	27	30	20	15	8
22	保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。	65	25	5	4	1

3) 各質問項目について

Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。

①だけで84%、①②合わせて96%という高評価であった。日々の自由遊びでも園児本人が何をしたいのか、どうしたいのかを大切にしている。そういう成城幼稚園の方向性を支持していただいたことは大変ありがたい。

Q2 お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。

①②合わせて95%と高評価ではあったが、少数ながら③もあった。園児どうしの人間関係は日々変化しているので、その時々で受ける印象は違っているだろう。衝突することは、この年齢の子どもにとっては必要な経験でもあるので、園児の話をよく聞き、その都度良い方向に向かうように指導することを心掛けている。

Q3 登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。

①②合わせて96%と高評価であったが、4%の保護者が③④の回答だった。降園時に担任から保護者に毎日状況をお話することで、園での生活は概ね伝わっていると思う。ただ、担任が取捨選択して伝えた情報以外のことを周りから聞いたりしたときに違和感を持つ方がいる可能性はあるので、その点については園側の意図をより積極的に広めていきたい。

Q4 行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。

①だけで90%、①②合わせて96%と高評価だった。歌・スキップ・ダンス・劇など様々な活動を、折々の行事の中で発表できるようにしている。また今年度は父母の力を得て「鰻のつかみ取り」「お坊さんの職業体験」なども開催でき、園児たちは貴重な体験をすることができた。

Q5 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。

①②合わせて92%と決して悪い評価ではないのだが、③④で7%ということで、課題の残る項目である。担任をはじめとする教員に気軽に相談ができないのだとするのもったいないことである。相談したことによって偏見を持たれるのではないかと危惧されるのであれば、それは杞憂であると申し上げたい。またカウンセラーとも相談できることをさらに周知していく必要があるだろう。

Q6 感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

①②合わせて97%の評価をいただいた。コロナ禍以来、健康面には十分注意を払って活動しているが、幼稚園は集団教育の場であるから、どうしても人から人への感染を100%封じることが不可能である。今年度はインフルエンザによる学級閉鎖で残念なことに1クラスが秋の遠足に参加できなかった。このようなことを減らせるように、早め早めの対策を打っていきたい。保護者の寄付によって空気清浄機を来年度より各保育室に導入することとなった。

Q7 特色ある教育活動が行われている。

①②合わせて９８％と高評価だった。長い伝統の中で作られた独特の教育が評価されたと思われる。自由遊びの中から自分で発見する力を身につけるといのは遠回りのように思われるかと心配することがあるが、幼児期の大切な学びとして理解して下さっている保護者のみなさまに感謝したい。

Q8 ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。

昨年同様①～⑤まで分散した結果となった。園としては幼児にパソコンやスマートフォンを使いこなしてほしいと思っているわけではもちろんない。ただ家庭ではスマートフォンやタブレットに触れている園児かなり多いはずだ。やがて小中学生時代に直面するであろう危機を回避するための基礎づくりである。今年度は学外の専門家に授業も行ってもらった。そのことが伝わっていないことが残念であった。

Q9 施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。

①だけで８４％、①②合わせて９９％という高評価だった。光をふんだんに取り入れられる園舎と、豊かな自然あふれる広い園庭とが評価されたのだろう。１％の③の方は特に施設面に関してはコメント欄の記入がなかったが、どこに問題を感じていらっしゃるのか伺いたかった。

Q10 本園の良さを学外の人に伝えたい。

①②合わせて９７％の高評価であった。成城幼稚園を良いと感じてくださることと、他者にそれを伝えたいと思うこととは大きな差があるだろう。少子化の時代に安定して受験生を獲得していくには口コミは重要な鍵となる。現保護者がこのように感じていてくださることに励まされる。

Q11 英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。

①②合わせて９５％の高評価であったが、残念ながら①だけだと６６％と十分な数字ではなかった。幼稚園でフルタイムのネイティブ教員を配置している園は少ない。英語の授業だけでなく通常の保育に日本人教員と同じように関わることで生活の中での英語を園児たちが体験することを大切にしている。①ではなく②を選ばれた方がどのような点に物足りなさを感じていらっしゃるのか調査したい。

Q12 筋道立てて考える力を養う教育が行われている。

①②合わせて８７％の評価をいただいているが、③④⑤の回答も散見されて今後の課題となる分野である。幼稚園の中には足し算や引き算などの算数を取り入れた教育を行っているところもあるので、そういう園との比較で、理数分野に消極的と思われがちなのではないかと考えられる。筋道立てて考えるとは、次にどうなるか予想を立てること。また何かを解決するためにどのような手順で進めるか考えること。ごっこ遊びや物づくりにおいてそのような体験を積んでいることが保護者に伝わりにくいかもしれない。

Q13 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。

①だけで８９％、①②合わせて９９％の高評価であった。園庭の素晴らしさは成城幼稚園の自慢のひとつである。駅から近い立地でこれだけ自然の豊かな園庭を擁していることは大きなアドバンテージである。そしてその中で行われる自然観察こそが理数教育の基礎中の基礎である。Q9と同様に③とした１％の方にどの点が不十分なのか教えを請いたい。

Q14 情操・教養を伸ばす教育が行われている。

①②合わせて 97% の高評価であった。Q4 で触れたように園児自身が発表する機会を多く設けていること、「キャスパー」「ロバの音楽座」などプロの劇や音楽を鑑賞する会を実施していること、さらには保護者による「職業体験講座」など、多彩な取り組みによって感性を刺激する一年となっている。今年度は、学園高校の生徒が環境問題について授業をしてくれるという予定外の企画も実施することができた。

Q15 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。

①②合わせて 99% の高評価であった。Q14 で触れたように芸術的な側面はもちろんだが、他にも卒園生の畑にお邪魔して「さつま芋掘り」を行ったり、プランターで植物を育てたりと、画面を見てのヴァーチャルな知識ではなく、実際に生のものを体験することを大切にしていることが高評価につながったと考えられる。

Q16 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。

①だけで 92%、①②合わせて 99% と高評価をいただいた。お節句・七夕・焼き芋・クリスマス会・ひな祭りなど一年を通して季節の行事を丁寧に行うことで伝統文化を味わえる機会を設けている。

Q17 丁寧な子どもの観察が行われている。

①②合わせて 97% と高評価ではあったが、少数であっても③④の回答があったということは残念である。次の Q18 と合わせて教職員が園児をどう把握し、それを保護者にどうフィードバックするのが課題である。

Q18 子どもたちについての情報が十分共有されている。

①②合わせて 93% の高評価であったが、③④の回答が 7% あり、今後の課題であろう。情報の共有については、教員間の共有・教員と保護者との共有という 2 種類が考えられる。前者については Q17 にある園児たちの行動についての丁寧な観察だけでなく「子どもの様子」という会合を職員会議とは別に月に 2 度ほど設け、教員間の情報共有に努めている。後者については Q3 で触れたように降園時の担任からの話の中で伝えられるよう努めている。

Q19 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。

①②合わせて 93% と高評価であったが、③④が 5% もいることは大変残念であった。この項目は学園が大切にしてきた「個性尊重」ということを問う設問であり、それに対して不十分であると感じる方が数人とはいえない。園児たちの個性に応じた教育を行えるよう心がけていきたい。

Q20 人間関係を大切にした教育が行われている。

①②合わせて 95% と高評価であった。幼稚園における人間関係は、園児と園児・園児と教職員・保護者と教職員・保護者と保護者など様々あるが、園児どうしの友人関係については Q2 で回答していただいている。さらには人間関係には個と個・個と集団・集団と集団などの観点もある。やや漠然とした問いだったかもしれない。③④が 1% ずついることも看過できない。

Q21 保護者全体のマナーが向上した。

Q22 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。

保護者のマナーについての 2 項目である。Q22 で園の努力、Q21 でその結果ということになるだろうか。自由記述欄にはこの項目の回答が最も多かった。「参観日の保護者同士のおしゃべり」「降園時は保護者の話し声がうるさく先生の話が聞こえにくい」などや、ラフな服装などにも不快感を述べていらっしゃる方がいる。園としてはその都度お知らせをして改善をお願いしてきた。大人が子どもたちの良い見本となるよう、保護者と園とで

協力していきたい。

V まとめ

園の教育活動について一定の支持をいただいているということを読みとれるアンケート結果であったと安心している。ただ、少数とはいえ成城学園が大切にしてきた分野で不満をお持ちの方がいらっしゃることにについては、改善の努力をしていく必要がある。また自由記述欄からは、このアンケートそのものの意味や方法を問うものもあり、今後の学校評価の展開にも工夫が必要であると感じる。幼稚園の場合は毎日の送迎の際に保護者と教員とが話をする機会があるので、互いの意思疎通は取りやすい状況ではあるが、園の行っている教育活動のひとつひとつの意義や狙いを保護者に理解していただくまでには至っていない分野があるようだ。次年度以降への教訓としていきたい。

学校関係者評価委員会 報告

(2025 年度学校評価アンケート 幼稚園の自己評価説明を受けて)

アンケート結果および、「自己評価委員会」の報告を受けて、「学校関係者評価委員会」を開催した。

評価については、ほとんどの項目で満足していることを伺わせる回答が多く、成城幼稚園が園児のことを第一に考え、園児たちの成長にとって有効かつ幅広い活動をおこなっていることは十分に理解していただいていると考えられる。

ただ、自由記述欄のコメントに、幼稚園は規模が小さいので、匿名とはいっても誰が書いたか特定しやすく、悪いことは書けないとのご指摘もあり、アンケートそのものについての検討も必要なのかもしれない。あるクラスの回答数が在籍人数より多かったこともあり、故意か間違いかは不明だが、正確性を欠く部分があるかもしれない。同時にアンケートの質問が毎年同じで無意味だというコメントもあったが、これは教育の目標が変わらないこと、経年変化を見る必要があることから生じているのを周知する必要がある。

当委員会では自己評価委員会のまとめをもとに以下の項目ごとに幼稚園での活動の成果を話し合った。

【英語教育・国際教育について】

成城学園全体として、英語教育に力を入れていることが幼稚園でも実践されていると思われる。特にネイティブ教員が一般の日本人教員と同様に保育全般にかかわっていることは他の園ではあまり聞かない特筆すべき環境である。

また国際教育の基礎となるのは国際人として自国の文化をきちんと身につけていることであるが、一年を通して日本文化に触れる行事が充実していることも重要である。

アフタースクールも含めて、英語に触れる時間がかかなりあり、園児の音声的な発達の時期と合致して有意義な活動となっている。

【情操教育・教養教育について】

鑑賞するという点では、音楽・演劇などプロの方々がおこなう公演を年に数回実施し、園児も集中して観ており、十分な機会が与えられていると思われる。

発表するという点では、さまざまな行事で合唱が常に行われているだけでなく、ひな祭りの劇のように自己表現をする機会が多く設けられている。専門家の指導による造形の時間の活動も特筆に値する。

また「お店屋さんごっこ」や「お買い物体験」のように社会の仕組みに触れるような活動も本格的な形で進められていることも園児たちの成長を促す要因になっている。人と人とのつながりを大切にし、集団の中で成長していくことが大切にされていると思われる。

【理数系教育について】

理数分野で幼稚園児にとって特に重要なのは観察力を養うことであろう。自然豊かな園庭での遊びの時間はこの力を伸ばすのに最適な環境で行われている。四季によって変化していく自然を全身で感じ、動植物の様子を丹念に観察する姿は園児たちの自然への興味関心の高さを物語っている。

行事などのさまざまな場面で数を数える機会を持ち、数字への関心を高めている。ただし、他の分野と比較して、もうひとつ評価が高くないのは、足し算など他の園で実施しているような活動をしていないことも原因であろう。また学園全体で取り組んでいるデジタルシチズンシップ以外の部分では、ICT機器などの導入に慎重である点は対象年齢から鑑みてやむを得ないことであろう。

【保護者のマナーについて】

例年あまり評価が高くない項目であり、また自由記述欄に最も多くのコメントが寄せられる項目でもある。送迎などで日々顔を合わせるため保護者どうしで、どうしてもお互いが気になってしまうことがあるのだろう。

園児に接する大人の見本としては教員も保護者も同様であるので、保護者への働きかけは続けるべきであろう。

【まとめ】

全体としては、成城幼稚園の活動に対して保護者は十分理解し満足していると考えて良いだろう。

ただし、自由記述欄のコメントの中には成城学園の教育方針自体に共感できないことが示されているものもあった。特色があるということは、逆に言えばオールマイティではないということだ。幼稚園を選ぶさいに、初等学校まで見渡して、成城がどういう学校かを十分わかって入園していただけるよう広報にも力を入れる必要がありそうだ。

そういう点も踏まえたうえで、これからも大筋では今までの方向を維持すると同時に、細かい点での手直しを続けていってほしい。園児たちの成長の場としていっそうの努力をお願いする。

以上